土を考える会を

# 若手農家の参加で活性化

# 全国6地区で5000余名が参加

## 東北土を考える会の清水会長に聞く

「土を考える会」は、農業に対する圃場づくりや基本技術、機械化をテーマとして先進的農家が情報交換を行い、手弁当で研鑽を重ねる革新的な農業経営者組織だ。1978年の「北海道土を考える会」の創立から45年、本州で各地区に設立された有機物循環農法研究会など様々な変遷を経て、現在全国6地区500余名の会員が活動を行っている。現在では第2・第3世代の時代となり、研究会も興味深い内容が多いことから若手農家の入会や参加が増えてきた。弊紙では全国6地区の土を考える会会長に、ご自身の農業経営や各地区での土を考える会の現状と今後について話を伺っていく（不定期）。

今回、その第3弾として「東北土を考える会」の清水一孝会長（49）に話を伺った。清水会長は岩手県北上市和賀町にある日本最大規模の生産法人㈱西部開発農産で農作業を担う生産部部長として現場を仕切ってきた。

現在は、受託部部長として年間200㌶前後の農作業受託の他、GAPの取得に向けた現場マネジメントの最適化など多様な業務をこなしている。清水部長は「中山間地域の農業が衰退する中でも地域の中核農家が頑張っている。一方、大規模に経営する農業も拡大を続けている。たとえば社長と右腕、スタッフ2人で100㌶規模の経営が、200～300㌶へ拡大していく場合、組織化や人材育成など様々な問題に直面する。そうした方々の課題解決もコンサルタントとしてサポートしていきたい」と話す。

東北土を考える会　清水会長

【経営状況】

経営面積は昨年1060㌶で実面積は890㌶。地目は8割が水田。区画は4500筆でほ場は3700枚、1枚当たり平均面積は18㌃。作目は食用米66㌶、飼料用米163・7㌶、稲WCS81㌶、大豆370㌶、牧草45㌶、子実コーン1・9㌶。小麦165㌶とそば172㌶の二毛作で構成。肉牛は繁殖黒毛和牛100頭、育成と肥育牛が170頭。うち肥育牛を年間70頭出荷。その他、同社経営の焼肉店向けの野菜生産も行う。今後はベトナムに直営焼肉店の出店も予定する。

正社員数は57人で平均年齢は35歳（昨年12月現在）。正社員40名が配置され現場での作業を行う生産部はパートと実習生等70名で構成され、農産課が栽培管理で業務課が現場オペレーションを行ってきた。「人それぞれ得手不得手があるが、農業はフィールドが広い。苦手を克服するよりも、得意な部分で活躍していただいている」と話す。

その他、農作業の標準化と作業難易度を加味した能力マップを使用した人事評価の明確化、若手の発言を積極的に採用するなど、人材育成に注力してきたことで強い組織になってきたと笑顔だ。

効率化も進めており、その一環としてスマート農業を積極的に活用。「量をこなしながら細かく見られるようにしていくために活用は必須だ」と話す。

22インチ５連の安全装置付きリバーシブルプラウ

現状、自動操舵の活用度が高く、それに続くISOBUS作業機は肥料・防除・播種で使用し、資材使用量の低減によるコスト削減に貢献する。

トラクタデータはTAPフィールドに、栽培データはGEOMATIONを通して記録・蓄積。スマホとタブレットの即時同期や情報共有などで役立てている。さらに個々の日報はライングループでシェアしており作業状況はどこでも把握可能だ。今後必要となることを聞くと農機と生産管理システムの連携だと断言。

人の手を介すことなく、作業情報をリアルタイムに自動的にデータ記録し収集できれば、最新の正確なコストデータが瞬時に確認できるので、そのメリットは大きいと強調する。そうしたスマート農業による効率化と合わせて、効率的な水稲栽培として乾田直播への置換えも進めている（昨年50㌶、今年度70㌶）。これらにより、現状の1人あたり作業を25㌶から40㌶とし、全体で1600㌶の経営面積増大を目指す。

「SWOT分析で弊社の強みは人と農地が集まることなのでそれを生かしたい」とした。

【機械保有状況】

その経営規模ゆえに保有台数も圧巻だ。トラクタ50台、コンバイン23台、田植機7台、ドローン7台、作業機約130台を誇る。国内最大級のモバイルドライヤー（可搬式穀物乾燥機）も導入し、子実コーンや小麦、飼料米に使用する。

これらをシーズンに合わせて効率良く活用できるように、トラクタと作業機を組み合わせた稼働状況をエクセルシートに集約管理。一方で自動操舵は18台、うちトプコンが13台で5台がCHCNAVを使用。その使い分けは、1ノズル毎に制御可能なアマゾーネの最新鋭マウントスプレーヤやボグボールのブロキャス、クバンランドの12連シードドリルやマルチコーンなど播種機4台を含めたISOBUS作業機6台の使用時や圃場データの有効利用を図る時はトプコンで、自動直進の利用に留まる時はCHCNAVを利用。

ドローンはDJI2機とナイルワークスの10㍑ドローンを5機利用。

本来的にはトラクタでの作業が一番早いと清水会長。とはいえ適材適所の作業を行う上で女性スタッフが10㍑機を担当。圃場間移動が多いので軽い機体でワンオペ自動飛行ができて良いとのこと。今後、ザルビオ連携での可変追肥をブロキャスと共に拡大する方針。

そうした中でスガノ農機製品は、先日導入したアキューム付の20㌢4連リバーシブルプラウを22㌢5連にカスタムメイドしたものを使用。清水部長は「スガノ農機は日本の土に一番合わせて開発されており、反転性も良い。ユーザーの意見も聞いてもらえるし、それを取り入れた機械も多い。復元田は浅耕プラウ（R138）や同機を使用する。あと溝掘機とリバーシブルプラウ3連2台は水田300㌶全体にかける。レベラーは3・2㍍牽引2台と、近年導入した5m直装が1台。耐久性は以前より向上していると感じるが、欧州製品と比肩できるよう更に期待したい」と話した。

25年前の入社当時、西部開発農産は全体で300㌶のうち水稲55㌶の規模があり、すでにプラウやサブソイラというスガノ農機製品を当たり前に使っており、その頃からの馴染みの製品で、特にプラウへの信頼は篤いものがあるそうだ。

北東土を考える会

# 土壌分析と農機の組み合わせ

## 踏圧、直播など精力的に学ぶ

清水会長は福岡県北九州市生まれで愛媛育ち。宮沢賢治に憧れて岩手大学に入学。そこから農業を志し、同社と黄金崎農場を迷った末に西部開発農産へ入社。3年目に米国の農場を視察し400馬力の超大型トラクタを体感。大規模と地元でも多い中山間農業の対比を意識したそうだ。それから1年後に、照井耕一会長（当時社長）に同行し、前年創設された有機物循環農法研究会東北支部（東北土を考える会の前身）研修会に初めて参加。親より上の世代の諸先輩方々と呑みながら語らったそうだ。

当時の水田は食用米栽培が多く転作して作物を作る概念が乏しかったが、それから徐々に転作が増えていった。しかし、麦豆は雑草との戦いに明け暮れ、乾田直播技術も確立されてなかったそうだ。

そうした中、草取りをパートにお願いしていたが、このような3K作業では外部に頼れない時代が来ると予見。生産性が高く合理的な農業スタイルへの移行を模索した。

「日本の場合、反収×単価×面積を追えば現状は、売上になる政府管掌作物は面積を第一、単収を第二に。主食用米は単価を追求し、収量を確保と共にコストダウンを図り経営拡大していった。その過程での課題解決のヒントとなる情報を求めて土を考える会に参加していった結果、価値観の近い方々とのネットワークができた。現地でお互いの圃場を見せ合いながら色々指摘してもらえた。転作の方や水田専業の方というような杓子定規な切り分けで無く、様々な方から色々な話を聞くことができ学びの機会が多かった」と話す。

最高の技術を学べる場

「基本的に農業機械好きが集まる会ではあるけれど、農業の本質は土壌であり、その土壌を理解する一丁目一番地は土壌分析となる。それに農業機械をどのように組み合わせるかが課題だ。

透排水性を向上させる物理性改善や、堆肥・緑肥の活用などは、地域や土壌が異なると考え方と手法が変化するので、それらを実践的に行っている方々が集まる土を考える会は、数多くの土づくりの実際を見ながら最短で学べる貴重な会で、いわば『最高の技術を共有する場』となっている。土づくりは大規模ではおざなりになりがちだけど、これからは大規模ほど土づくりに緻密な管理が求められるはず」とのことだ。

東北土を考える会について聞くと会員数は100人に迫り、地域としては岩手・宮城の方が中心とのこと。コロナ後も他地区に先駆けて動き出し、昨夏は一関で土壌踏圧、今春は花巻で土壌分析ときて、今夏は大潟村で雪国直播サミットを復活するなど活発な活動を行っている。そのような中、若手農家の参加と入会が増えてきているとのこと。清水会長は「高い技術を求めている人なら老若男女問わず、来るもの拒まずで技術共有して、お互い力を合わせていきたい」と話す。また事務局を務めるスガノ農機のスタッフも若手や女性も多く動きが良いと褒めていた。

会員歴25年の中で大きな影響を受けた人を聞いてみると黄金崎農場における木村愼一さんや、近代乾田直播のパイオニアである秋田県大潟村の矢久保英吾さん、北海道十勝で小麦1㌧穫りを継続する武智唯浩さん。そして北海道栗山町の故勝部征矢さん。「数世代で作り上げてきた歴史と伝統の重みが違う。はじめ見に行ってびっくりした。土づくりとモノづくりに含めた物事の発想が違う方だった」と嘆息。最後に「東北土を考える会はまとまりがよく積極的に活動ができている。とはいえ私も他地区と関わることで人脈が広がったので、全国と気軽に交流できる繋がりがあってもいいと思う」と話した。